

# 金窓寺川調整池がついに完成！

川調整池がついに完成式を行いました



第12号  
諏訪形自治会  
会長窪田善雄

なお、上田市都市建設部土木課による地元説明会における主な質疑応答は以下のとおりです。

(質) ライブカメラの設置はどうなるか。  
(答) 調整池の完成後、設置を検討している

金窓寺川は、今まで大雨による氾濫を繰り返しました。そのため、歴代の自治会役員、防犯委員会の皆様が、毎年定期的に河川清掃活動を行なっています。

金窓寺川は、今まで大雨による氾濫を繰り返してきました。そのため、歴代の自治会役員、防犯防災協議会の皆さん、まちづくり協議会の皆さんなど多くの方々が大雨のたびに出動してスクリーンに引っかかつたゴミの除去や土のうの設置などに尽力していただきました。

そのようなかで、令和二年に「城下地区排水対策事業」（実施計画で事業費五億二千円）の最初の事業として、金窓寺川調整池の整備工事が始まりました。そして、四年九月末に悲願の調整池が完成し、一日（土）に現地で完成式が行われまし



用地を提供してくださった小林和夫様、小林久美子様、柳澤實様、工事に全面的に協力してくださった金窓寺様をはじめ、「ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

- 大雨のたびに水がつくのではないかと心配してはいた。スクリーンの枝を除去ししなければならないと、声を掛け合つて雨の中で作業をしてきた。そういうした心配がなくなり、地域の災害が減ることになり、本当に良かつた。
- 大雨のたびに水がつくのではないかと心配してはいた。スクリーンの枝を除去ししなければならないと、声を掛け合つて雨の中で作業をしてきた。そういうした心配がなくなり、地域の災害が減ることになり、本当に良かつた。



## 金窓寺川周辺の除草作業

金窓寺川周辺の除草作業  
金窓寺川調整池完成式の翌日の十月二日、金窓寺川周辺の除草作業を行いました。前日まで、式典のために何日も準備をしてくださつた方々も何人も参加していただき、二十一人で作業を行いました。



# 令和四年度 自治会懇談会

# 令和四年度 自治会懇談会

(質) 調整池の泥上りには、梅雨前と台風シーズン前に市が二回実施していたが、これについては引き続きお願いしたい。これまで通り、土砂の堆積状況を見て撤去作業を実施する。

(答) 調整池に子どもなどが入れないよう、フェンスなどを設置してもらえるか。

(質) フェンスについて東側は設置済み。北側は高い擁壁があるので入れない。今後西側と南側に設置をする。調整池の外周を囲む一侵入防止用のフェンスは子どもの中長よりも高い一・五メートルとし、調整池を囲む内側の「転落防止用フェンス」は高さ一メートルとする。また、入ってはいけない旨の注意喚起看板を設置する。

(答) 現在、年2回地元の皆さんに金窓寺川の草刈りをお願いしている。今後はお手数をおかけするが、併せて調整池周辺の草刈りもお願いしたい。



城下小学校では、体験学習の一環として、五年生の子どもたちが学童農園で米作りを行っています。

## 城下小学校の学童農園収穫体験

公立大学法人  
長野大学

諏訪形詩活用委員会企画  
第五回 「諏訪形詩」を歩く ウォーキングイベント

## 「淡水生物学研究所」を訪ねる



すせ活れせしめまに考り念に  
い用まんいてす関えま地あ「  
た委し。ここがわてす」た六  
だ員たごとの「る当」とる十  
け会ら存が碑名も然名彫場間  
たま「のくつのだ堤やれに防  
らで諦方わい意と防場た」「  
幸お訪がかて味思や所碑避の  
い知形おりはもわ防かが水東  
でら誌らま詳含れ災らあ紀端



常田新橋下をくぐると、「六十間堤防」の西端に出てます。この堤防は一九〇八年（明治三十一）年の洪水でこの地域が大きくなり、小牧の人たちが中心となつたと記録されてます。この建設には誠訪形の人たちも参加しました。当時の長さにちなんで「六十間堤防」の名で呼ばれてますが、堤防はその後拡張され、現在で二六〇メートルほどになりました。上の元の皆さんは常田新橋から見た現在の六十間堤防です。「やつくり（櫓）」といふことがあります。



たチすのも連のヨ。写取携まはウ雨真りでた、ちザのは組「メ後チんチ最よつのでヨでヨ近と残念でしられて養かて池つ、で上にの

な持「だきるか完の究かちビけ込こら成も施こ興つ才でんとかしの設の味つトはでかなり深いある「ないらり「普くる、の多水干時と様路曲間ものでうしなな川がしあして生どか経過した。話の物はらは機が、水してな能育魚をかもつ類引い





現在の「長野大学淡水生物学研究所」は、一九四〇（昭和十六）年に「農林省水産試験場上田試験地」として開設以来、何度かの組織改編などが行われて、二〇一九（平成三十一）年からは公立学校法人長野大学の施設として運営されていきます。今回は所長の箱山教授に講まれたいと思います。なお、今回の施設見学に際しては、骨折りをいたしました。ありがとうございました。ありがとうございました。



北沢顧問から歴史的背景の説明があり、上田市マルチメディア情報センターのアーティストイブから「養殖始まる（信越放送・一九六五年）」を視聴した後、箱山教授から千曲川水系における河川管理や生物の遺伝的多様性の問題などについてのお話を伺いました（難しかつた！）。ついで、「長野大学淡水生物学研究所」の地域貢献などを目で見てきました。本文末のURLをご参照ください。



ご参加いただいた皆さんの声

- ・ 本日の企画は非常に良かったです。千曲川の恵みとともに生きてきた諏訪形住民として、魚のたくさん住める環境の再生について淡水生物学研究所の活動と成果におおいに期待します。
  - ・ たいへん楽しく歩いて、山を見て、田んぼを見て、秋の香り秋の景色を堪能しました。山好きな私はとてもうれしく思いました。
  - ・ 知らないことを勉強して、わずかですが知つてうれしかったです。ありがとうございました。
  - ・ 淡水生物学研究所の説明をしていただき、すばらしいと思いました。
  - ・ 「地域の誇りとなる、あつて良かったと言われる研究所にしたい」淡水生物学研究所の長野大学教授箱山所長の言葉が胸に染みました。



https://www.nagano.ac.jp/  
https://www.nagano.ac.jp/outline/facilities/ifb  
https://suwagata.ueda-common.net/